

式 辞

校庭の桜が丁度満開の時節を迎え、春の到来を喜ぶ笑顔が学校中に満ちあふれている今日の佳き日に、宍粟市教育委員会教育部次長山本信介様を始め多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜り、兵庫県立山崎高等学校第74回入学式が斯くも盛大かつ厳肅に挙行できますことはこの上もない喜びであり、高いところからではありますが、心より御礼を申し上げます。

只今、入学を許可致しました234名の新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。また、各ご家庭の皆様方に対しまして、本日のお子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは今、入学の喜びと共に高校生活への希望と将来への夢に胸を大きく膨らませていることと思いますが、皆さんのこれまでの成長の陰には、ご家族の支えや、小中学校時代の先生方、そして、今までに皆さんが出会ってきた数多くの方々の励ましがあったということを決して忘れてはなりません。皆さんの人生の節目である今日のこの場に於いて、改めて「感謝する」ということが大事であることを、しっかりと噛みしめて頂きたいと思います。

さて、皆さんのご入学に際し、高校生的心構えについて、幾つかお話をしたいと思います。

第一に、本校の校訓「希望・英知・敬愛」をしっかりと胸に刻んでください。「希望」とは、胸にしっかりとした志を抱いて、「自分は将来こうなりたい!」という「夢」を描くということです。「英知」とは、高校生として確かな学力を身につけると共に、体験を通して新たな自分を発見し、生きる力を身につけるということです。そして、「敬愛」とは、まずは自分を大事にすると共に、家族や友人、学校の先生、地域の方々を敬い、慈しむことの出来る人になることです。今はまだわからずとも、「希望・英知・敬愛」というこの校訓は、皆さんの人生において、じわりと染み込むように効いてくる、非常に大切な言葉となってくると信じています。

第二に、ふるさとに学び、ふるさとに貢献できる人になってください。皆さんがこれから三年間学ぶ、この山崎高校のある宍粟の地は、緑鮮やかなる山なみや揖保川の清き流れに恵まれた実に自然豊かな地域です。また、古くは「播磨国風土記」の中で「宍禾の郡(しさわのこおり)」と呼ばれ、数々の伝説が今も伝えられている、本当に歴史豊かな地域です。このような環境の中で、三年間学べることを大いなる喜びとしてください。

第三に、「勉強」と「部活」に全力で取り組んでください。高等学校の教育内容には様々な側面がありますが、その要点は何かと問われれば、それは間違いなく「勉強」と「部活」です。本校では、すべての教職員が「きめ細やかな生徒指導・学習指導・進路指導」を教育活動の「命」として生徒の成長を支援し、学びの喜びを共に見つけるべく日々努力を重ねています。また、その部活動の充実ぶりには目を見張るものがあり、本校は今後とも「勉強と部活が思いっきりできる学校づくり」を力強く推進していきます。

第四に、一日の始まりを大事にし、「元氣な挨拶」を心がけてください。これは、ご家庭の皆様へのお願いでもあるのですが、「おはよう!」という朝の元氣な挨拶が交わすよう心がけて下さい。元氣な挨拶が出来るようになれば家族の信頼関係を取り戻すことができます。そして学校に着いたら、友達や先生方と大きな声で「おはよう!」と元氣な挨拶を交わしてください。本校の校歌は、「朝の挨拶 あかね色 今日一日のはじまりに ころの扉 ひらく音」という歌詞で始まります。校歌の作詩者で神戸の著名なる詩人、竹中郁先生も山崎高校生に伝えたい一番大事なメッセージとして盛り込んで下さっています。新入生の皆さんの元氣な挨拶を期待しています。

最後に、ご家庭の皆様にお問い合わせがあるのですが、子供の人格形成の原点は家庭環境にあります。

親を敬い、子を慈しむという関係を築いて下さい。その上で、学校と家庭がしっかりとした信頼関係を持ち、スクラムを組んで事に当たるということが肝要です。家庭での子育ても、学校での生徒指導や学習指導も、実際には一筋縄ではいかないことが多くあります。しっかりとした方針と根気がなくてはなりません。この点を、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、去る4月1日に新しい元号が発表され、時は今「平成」の時代から「令和」の時代へと移ろうとしています。長い歴史と伝統に彩られ、文化豊かなこの日本国に生まれたことに感謝し、新たなる時代の到来を大いなる喜びとしつつ式辞と致します。新入生の皆さん、共に新しい時代を切り拓いてゆきましょう。

平成31年4月8日

兵庫県立山崎高等学校長 原 田 尚 昭